

出エジプト記19章5－6節 聖書通読イントロ「祝福する民」

1A イエス・キリストの証し

- 1B 人々の備え
- 2B 到来
- 3B 宣伝
- 4B 説き明かし
- 5B 完成

2A 祝福する民

- 1B 民への約束
- 2B 贖われた者
- 3B 聖め
- 4B 荒野の歩み
- 5B 愛の誓約

3A 祝福の約束

- 1B 約束への道 1－11
- 2B 約束の確立 12－24
- 3B 約束の継承 25－36
- 4B 贖いへの備え 37－50

4A 祝福の約束への道

- 1B 創造における祝福と呪い 1－4
- 2B 子孫における祝福と呪い 5－9
- 3B 民族における祝福と呪い 10－11

本文

私たちは、これから創世記から始まる聖書全体の通読を始めます。その始めにおいて、私たちはまず、聖書全体にある大まかな流れを知っていきたいと思います。世界旅行の旅に出るとして、各地域のことを順番に知っていく前に、まずは、グーグル・アースなどを使って、全体の旅路がどうなっているのか、どのような方向に行き、流れになっていくのか見てみたいですね。今回は、そのことをしてみたいと思います。そして創世記の導入部分を最後にお話したいと思います。

1A イエス・キリストの証し

1B 人々の備え

午前礼拝で見てきましたように、イエス様がユダヤ人指導者たちに伝えたのは、聖書はご自身のことを証しているということでした。「ヨハ 5:39 **あなたがたは、聖書の中に永遠のいのちがあ**

らと思って、聖書を調べています。その聖書は、わたしについて証しているものです。」

私は、この箇所を見て、初め非常に驚き、聖書の見方が一気に変わりました。ここでの聖書は、旧約聖書のことです。イエス・キリストのことを知るなら、福音書で、旧約聖書は、神を信じる人々の模範を学んでいることだと思っていました。ところが、そうではなく、創世記から黙示録まで、すべてがこの方を証しているのだということです。私たちを救い、今、私たちが愛しているイエスを、創世記からずっと見ていくことができる、というのですから、すごいことです。

そして、主が現れる前の旧約聖書において、この方が来られることを先に証しているものです。この方についての預言があります。また、この方にある救いはどうして必要なかを教える律法によって、この方を切に待ち望むようにさせているのです。「ガラ 3:23-24 信仰が現れる前、私たちは律法の下で監視され、来たるべき信仰が啓示されるまで閉じ込められていました。こうして、律法は私たちをキリストに導く養育係となりました。それは、私たちが信仰によって義と認められるためです。」

後でじっくり説明しますが、創世記から申命記までは、モーセによって書かれたものとして、「モーセ五書」と呼ばれます。いわば律法です。律法を、何か自分が良い行いをするための規則であるかのように見たら、それは的外れをしています。そうではなく、これこれを行いなさいと命じられていく中で、聖なる神がおられることを知ります。そして、自分自身が罪深く、この方に到達できないことを知ります。そこで、神と自分をつなぐ存在、仲裁者、仲介者が必要であることを知ります。それが、キリストであられ、この方が現れる時に、まさにこの方が自分たちの救いであると、悟るようになるのです。

放蕩息子の喩えであれば、父の愛、またその恵みを、放蕩息子は遠い国で散財して、ひもじくなった時に、初めて我に返って、父のところに戻りました。その時に初めて、初めの時にはわからなかった、父の愛を知ることになります。ガラテヤ書には、律法がキリストに導くための養育係であると教えています。キリストに対する信仰へと至らせるように、人々を備えさせるために、神の律法、また預言が与えられました。

2B 到来

そして、新約聖書において、福音書があります。なんと四人の証言者が、イエス・キリストの良き知らせを証します。これは、マタイ 1 章 1 節にあるように、「約束された方が来られた」ということを教えるものです。ダビデの子として、救い主が約束されていました。アブラハムの子孫として救いが来ることも証されていました。「ダビデの子、アブラハムの子孫、イエス・キリストの系図」という言葉から始まるのです。

福音書は、聖書の約束の確認と言ってよいでしょう。律法の要求するところを満たすのが、イエス・キリストです。預言されていることを成就するのがイエス・キリストです。この方が事実来た、現れたということを証言しているのが福音書になります。ヘブル書の著者は、手紙をこう書き始めています。「ヘブル 1:1-2 神は昔、預言者たちによって、多くの部分に分け、多くの方法で先祖たちに語られましたが、2 この終わりの時には、御子にあって私たちに語られました。神は御子を万物の相続者と定め、御子によって世界を造られました。」

3B 宣伝

そして、イエス・キリストを知り、この方によって罪清められ、御霊によって新しくされた人々が、聖霊の力によって力強く宣べ伝えるのが、使徒の働きです。この世に現れたキリストを、世界に知らせていくのです。

4B 説き明かし

そして、その後の手紙、ローマ人への手紙からユダの手紙までが、キリストについての説明になります。この方を知った者たちが、この方をさらに深く知り、この方との歩みを知り、いかにこの方の再来を待てばよいのかを指導しています。

5B 完成

そして、この方にある救いの完成が、黙示録です。神の国の完成、その終わりがイエス・キリストにあって行われることが、黙示録に書かれていました。

2A 祝福する民

そこで、聖書の最初に戻ってきたいと思います。旧約聖書において、どこを軸にして読んでいけばよいのかと言いますと、モーセが主から語られ、イスラエルの民に伝えた約束にあると思います。出エジプト記 19 章 5-6 節です。ここが、今回の中心的な聖書箇所になります。「5 今、もしあなたがたが確かにわたしの声に聞き従い、わたしの契約を守るなら、あなたがたはあらゆる民族の中にあって、わたしの宝となる。全世界はわたしのものであるから。6 あなたがたは、わたしにとって祭司の王国、聖なる国民となる。』これが、イスラエルの子らにあなたが語るべきことばである。』」

主がご自分の民を祝福し、この民が祭司となります。祭司とは、神の祝福を他の人々に分かち合う、仲介者です。彼らが祭司となることによって、すべての国々が祝福を受ける、神の国になることが目標になります。私たちはこの前、黙示録で、地上に千年にキリストの統治を見ました。そこで、聖徒たちがキリストと共に統べ治める姿を見ました。さらに、新天新地で、天のエルサレムで、都の中で、神のしもべたちが仕え、また王となっていました。神がアダムにすべてを支配して、それで神の祝福が地に満ちるようにされたように、民が祝福となる神の国を建てようとしています。

1B 民への約束

ここで、神がイスラエルの民に、シナイ山でこのように語られた経緯があります。今、主は、「今、もしあなたがたが確かにわたしの声に聞き従い」とあります。それが、創世記にある、アブラハムへの祝福です。「創 12:1-3 【主】はアブラムに言われた。「あなたは、あなたの土地、あなたの親族、あなたの父の家を離れて、わたしが示す地へ行きなさい。2 そうすれば、わたしはあなたを大いなる国民とし、あなたを祝福し、あなたの名を大いなるものとする。あなたは祝福となりなさい。3 わたしは、あなたを祝福する者を祝福し、あなたを呪う者をのろう。地のすべての部族は、あなたによって祝福される。」」

アブラハムは、この方の示された地に移り、聞き従いました。そして、その子によって祝福されることも示されました。その後で、その子イサクを全焼のいけにえとしないと命じられましたが、彼は主を完全に信頼して、それも全うしようとしたのです。彼がイサクを屠ろうとする直前に御使いがやめさせましたが、主は約束されました。「創 22:16-18 わたしは自分にかけて誓う——【主】のことば——。あなたがこれを行い、自分の子、自分のひとり子を惜しまなかったので、17 確かにわたしは、あなたを大いに祝福し、あなたの子孫を、空の星、海辺の砂のように大いに増やす。あなたの子孫は敵の門を勝ち取る。18 あなたの子孫によって、地のすべての国々は祝福を受けるようになる。あなたが、わたしの声に聞き従ったからである。」

アブラハムは信じて、聞き従いました。このアブラハムの信仰の足跡にならって、これからあなたがたに命じることに聞き従うならば、あなたがたは、あらゆる民族の中にあって、宝の民となると、主はモーセを通して約束されたのです。

このようにして、創世記の歴史事実にある物語は、主がアブラハムに対して約束されたことに基づいて展開しています。この子孫として、キリストが現れました。私たちは、イスラエルの選びの民ではないですが、キリストにあって選ばれ、イスラエルの祝福の分け前にあずかっています。ロマ書やガラテヤ書には、私たちは律法の行いによって義と認められるのではなく、アブラハムへの約束を信じて、それで義と認められ、祝福されているのだと教えています。

2B 贖われた者

ですから、創世記は、神の民が祝福され、世界の祝福となる約束の書であると言えるでしょう。しかし、主は同時にアブラハムに、「あなたの子孫はエジプトに下る」ということも告げておられました。「創 15:13-14 主はアブラムに言われた。「あなたは、このことをよく知っておきなさい。あなたの子孫は、自分たちのものでない地で寄留者となり、四百年の間、奴隷となって苦しめられる。14 しかし、彼らが奴隷として仕えるその国を、わたしはさばく。その後、彼らは多くの財産とともに、そこから出て来る。」

約束された土地から離れ、エジプトで奴隷になります。しかし、主はそこから力強い腕で贖い出し、ご自分の民とされます。そして、荒野を導いて、約束の地に来させると約束されたのです。はたして、それがそのとおりになりました。その記録が、出エジプト記です。主が祭司の王国とすると約束される時に、その直前でこう語られています。「19:4 『あなたがたは、わたしがエジプトにしたこと、また、あなたがたを鷲の翼に乗せて、わたしのもとに連れて来たことを見た。』エジプトから贖い出して、それでご自身のもとに連れて来られました。

今、贖い出すという言葉を使っていますが、贖うとは、売りに渡されているところを、買い戻すという意味があります。イスラエルの民がエジプトの奴隷になっているところを、主が、取り戻されました。これが贖いであり、エジプトの圧政からの救いです。これが、キリストにあっては、罪からの贖いとして私たちのものとなっています。神の約束を信じて、私たちはキリストの流された血が代価となり、それで贖い出されました。神のものとされました。

ですから、出エジプト記には、救いについての神のご計画が、あのドラマチックな出エジプトの歴史において、目に見える形で現れています。エジプトは世を示し、ファラオはその王、悪魔を示しています。そして、過越の子羊はキリストの流された血潮、そして別れた紅海は、水のバプテスマを示しています。そして、エジプトは裁かれ、ファラオがさばかれます。同じように、悪魔と世は、キリストによって裁かれるのです。

3B 聖め

出エジプト記は、モーセに、地上の幕屋を建てるように命じられて、そのままレビ記に話が進みます。そこで、祭司たちがいけにえをどのように献げるのかを教え、清めの儀式についての教えもあります。そこでのテーマは、「11:45b あなたがたは聖なる者とならなければならない。わたしが聖だからである。」であります。神の民のものとされた者たちは、聖なる神に近づき、この方と共に歩みます。そこで聖められていることについて学ぶのです。

まさに、これがキリスト者の歩みです、救われた者たちは、同時に聖められ、神のものとされています。その聖さの中に生きていくことを求められているのです。

4B 荒野の歩み

そして、ついにシナイ山のふもとを離れて、約束の地に向かいます。それを記録しているのが、民数記です。荒野の旅ではありますが、彼らは、宿営でとどまっている時は、これらモーセからの律法を聞いていましたが、いざ旅に出ると、不平を鳴らしたり、罪を犯して、神に背いていました。そして、ついに 40 年間、その世代は荒野でさまよい、死に絶えるようにされました。約束の地に入れるのは、新しい世代のみです。

そこで私たちは、キリストにあってこの地上で具体的にどう歩めばよいのかを学びます。教会における聖霊の賜物があるでしょう。それで、この地上にあって天の賜物、恵みを知ります。また、異教の中で、いかに主にある歩みができるのかを学びます。それから、夫婦生活、親子生活、法を守り、税金を納めるなどの社会生活もあります。

5B 愛の誓約

そして、荒野の旅が終わりを迎え、モアブの草原でモーセが、最後の説教をします。それが申命記です。彼は、主なる神を、力と尽くして、思いを尽くして、心を尽くして愛しなさいと説きます。主に對する愛の契約を強く訴えます。主のイスラエルに対する契約は、夫と妻の誓約のようなものとして教えます。

私たちが、キリストに対して抱く愛、この方への従順がこの書では学べるでしょう。

3A 祝福の約束

このようにして、モーセ五書によって、私たちはキリストの約束と信仰、贖い、聖め、歩み、そして、誠実と愛について学ぶことができます。

それで創世記に戻りましょう。ここでの中心は、アブラハムに対する神の約束であることをお話ししました。もう一度、読みます。「12:1-3 【主】はアブラムに言われた。「あなたは、あなたの土地、あなたの親族、あなたの父の家を離れて、わたしが示す地へ行きなさい。2 そうすれば、わたしはあなたを大いなる国民とし、あなたを祝福し、あなたの名を大いなるものとする。あなたは祝福となりなさい。3 わたしは、あなたを祝福する者を祝福し、あなたを呪う者をのろう。地のすべての部族は、あなたによって祝福される。』」

1B 約束への道 1－11

この主の約束が、その後の神のご計画のすべての下地になっているといつてよいでしょう。そして創世記においては、この約束に至る経緯が、1章から11章までと言えます。天地創造、アダムとエバのエデンの園追放、ノアの時代の洪水、バベルの塔にまで至る道筋です。

2B 約束の確立 12－24

そして、12章から24章までに、アブラハムの生涯が記されています。そこで、主が彼に約束されたことが、イサクをアブラハムがいけにえとして献げようとしたところで頂点に達し、確かにこの約束をかなえると、誓いをもって主が宣言されました。

3B 約束の継承 25－36

そして、25章から36章までには、この約束の継承が行われています。イサクに対して受け継が

れ、さらにヤコブに受け継がれていきます。

4B 贖いへの備え 37－50

したがって、主は、ご自身を「アブラハム、イサク、ヤコブの神」と呼ばれるようになりました。けれども、ヤコブの息子ヨセフが、エジプトに売られて、その後、総理大臣になり、ヤコブの家族をエジプトに呼び寄せる話が創世記の最後です。37 章から 50 章です。これは、まさに贖いの話が、出エジプト記に出てきますので、その備えと言ってよいでしょう。

4A 祝福の約束への道

それでは戻って、創世記の最初の部分、1 章から 11 章までを概観したいと思います。アブラハムに対する神の約束が、どのような経緯で与えられたのかを見ることができます。

祝福がないところは、呪いですね。アブラハムへの祝福の約束が与えられる以前は、祝福されても、呪いが来るという繰り返しになっています。三段階になっています。

1B 創造における祝福と呪い 1－4

第一段階は、創造における祝福とのろいです。神が造られたものは非常によかったのですが、アダムの罪によって地が呪われたものとなり、またカインの殺人によって、人間がのろわれた者となりました。けれども神は、アダムの子セツを、カインの代わりに与えられました。

2B 子孫における祝福と呪い 5－9

第二段階は、子孫における祝福と呪いです。神は、セツから出た子孫を祝福されましたが、増え広がった人類が暴虐に満ちたために、その呪いを洪水というかたちでもって刈り取りました。しかし神は、セツの子孫のノアとその家族を残して、ノアの 3 人の息子によって人間を祝福する計画を開始されたのです。

3B 民族における祝福と呪い 10－11

第三段階であり、これはまた、民族による祝福とのろいです。セムとハムとヤフェテの 3 人から、人々が出てきましたが、バベルにおいて塔を建てることにより神に反逆したため、言語を混乱させられました。

このように、神は私たちに祝福のご計画を立てられていたのに、人間の反抗によって呪いも定められていました。けれども神は、そのサイクルを止めるために、ひとりの人アブラハムを召されました。彼を祝福して、彼①子孫を祝福し、さらにその子孫によって、すべての民族を祝福する計画を立てられました。それが、創世記の 12 章 1-3 節です。

私たちは次回、創世記 1 章から見ていきます。このような、壮大な神の贖いのご計画の中に、
私たちが入れられていることを思いつつ、信仰の歩みを堅くしていきましょう。